

國學院大學 文学塾

第七期開講

令和6年3月23日(土)

会場 渋谷キャンパス

対象 高校生 ※先生もぜひどうぞ

國學院大學文学塾とは

高校生のための新たな学びの場です。
伝統ある國學院大學文学部ならではの
専門性の高い内容で、知的好奇心の強い
皆さんの期待に応えます。
学問の最先端を、ぜひ体験してください。

講義テーマ

日本語って……

英雄豪傑じゃない人たち

— 『史記』の列伝を読む —

サハリン・樺太の歴史は

どのように語られてきたのか

— 歴史学における語りと視点

ジャネット・ランキンの生涯

— 戦争・平和・ジェンダー —

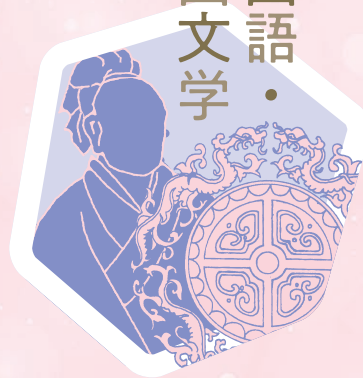
哲学は絵画のごとく

— ルネサンス人文主義再考

新しさとは何か

— 和歌の技法(本歌取り)の方法 —

中国語・
中国文学



歴史学



外国を学び、日本を知る。

人を学び、自分を見つける。



日本語・
日本文学



外国語・
外国文学



哲学



申し込み
スタート

参加無料

WEB事前申し込み制【申し込み締切：3月11日(月)】

※講座内容および申し込み方法は、大学ホームページをご覧ください



もっと日本を。もっと世界へ。

お問い合わせ先 國學院大學文学部資料室

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28

TEL.03(5466)4813 E-mail: bun_siryu@kokugakuin.ac.jp



國學院大學

A 会場

日本語って……

菊地 康人 教授 専門分野：日本語学、日本語教育学

毎日使っている日本語について考える機会はありませんが、外国人の日本語学習者にとっては、日本語は「？」「!」です。また日本人でも、日本語をじっくり考える機会を持つと、なかなか難しくもあり、おもしろい面も見えてきます（それを掘り下げる学問が「日本語学」です）。ここでは、「日本語って、どんな特徴のある言葉なの？」「外国人が驚いたり難しく感じたりするのは、例えばどんなこと？」といった話題を取り上げて、皆さんにとって新鮮な日本語の世界に案内します。

B 会場

ジャネット・ランキンの生涯
—戦争・平和・ジェンダー—

浅井 理恵子 教授 専門分野：アメリカ史

本講義では、アメリカ合衆国史上初の女性連邦下院議員となったジャネット・ランキン（1880～1973）の生涯を振り返ります。地元モンタナ州で女性参政権運動に参加し、女性として初めて連邦下院議員に選出されたランキンは、アメリカの第1次世界大戦参戦に反対票を投じ、それ以降、平和運動に邁進しました。ランキンの活動と思想は現代においてどのような意味を持ち得るのか、皆さんとともに考えてみたいと思います。

1

時限

10:30

12:00

2

時限

12:50

14:20

英雄豪傑じゃない人たち

—『史記』の列伝を読む—

佐川 繭子 准教授 専門分野：中国古典文献学、中国古代思想

漢代に司馬遷によって書かれた『史記』は、130篇からなる大部の書物です。王朝や諸侯の盛衰興亡を中心とした、当時としての「全世界史」が叙述されていると言われます。そこには英雄豪傑だけではなく、様々な人々が登場します。『史記』の構成は紀伝体と呼ばれますが、人物について書かれた本紀、世家、列伝はどのような関係にあるのでしょうか。この講義では、『史記』の構成について考えながら、いくつかの列伝の文章を読んでみます。

哲学は絵画のごとく—

—ルネサンス人文主義再考—

岡本 源太 准教授 専門分野：美学、哲学、芸術学

ヨーロッパで多彩な芸術が新しく花開いたルネサンス。この時代、哲学もまた「人文主義」（ヒューマニズム）の名のもとに、人間と世界についての新たな理解をもたらしました。しかもルネサンスの「万能人」たちが象徴するように、このとき哲学は芸術と分かちがたく結びついていました。この講義では、ルネサンスの哲学者たちの言葉と芸術家たちの絵画を照らし合わせながら、そこに描き出された新しい人間観と世界観を見ていきます。

サハリン・樺太の歴史は
どのように語られてきたのか

—歴史学における語りと視点—

神長 英輔 教授 専門分野：東北アジア近現代史、日露交流史

20世紀の前半、日本とロシア（ソ連）の人々は日露戦争と日ソ戦争（第二次世界大戦）を戦いました。サハリン島（樺太）はいずれの戦争でも戦場となり、戦後に島をめぐる国境線が引き直されました。日露両国にはサハリン・樺太の歴史についてのさまざまな語り（narrative）があります。この講義は、歴史学における語りと視点の意味を考えながらそれらの語りを比較・検証し、日本における日露関係史の常識を問い直す試みです。

新しさとは何か

—和歌の技法〈本歌取り〉の方法—

荒木 優也 准教授 専門分野：和歌

和歌の技法のひとつに〈本歌取り〉があります。有名な和歌の語句の一部を取り入れ、新たな歌を詠作する方法です。ただし、このように書くと、盗作や二番煎じだと考える人もいられるかもしれません。たしかにそういった歌もあります。しかし、〈本歌取り〉が成功した歌の場合は違います。奥行きもあり新しさのある和歌が誕生するのです。本講義では、〈本歌取り〉の歌を解釈しながら、新たな文化を創造するためには何が必要かを考えてみます。

3

時限

14:30

16:00

文学塾申し込み締切 令和6年3月11日①

※A会場とB会場の同じ時限の講義を申し込むことはできません

※各講座100名に達した時点で申し込みを締め切ります

※変更等が生じた場合、大学ホームページでお知らせします